

令和4年度 地域とつくる支援の輪プロジェクト全体会

1 日時

令和4年12月17日（土） 13時～15時

2 出席者

合計 65名

【内訳】大人：（会場）52名、（オンライン）4名
子ども：（会場）9名



3 実施内容

- ・地域とつくる支援の輪プロジェクト活動報告
 - ア 第1回 「子ども・若者のための相談・居場所について」
 - イ 第2回 「居場所づくりにおける地域と行政の役割について」
 - ウ 地域活動団体活動報告
- ・区の実践報告
- ・子どもの考えを聞く時間
テーマ：「私の夢・目標」
「自分たちが笑顔で過ごせるために大田区をどんなまちにしていきたいか ～もし、自分が〇〇だったら？～」

4 「子どもの考えを聞く時間」 発表の内容（一部抜粋）



Aさん

- 目標は、生涯学習社会をつくること。今は、子どもが学べる場所は学校というイメージがすごく強いので、公民館やコミュニティセンター、図書館や博物館なども学びというイメージをつけて、一人ひとりが学びたいものを、いつでもどこでも誰でも学べるという社会をつくりたい。ICTの活用やジェンダー問題など、一人ひとりの学びが多様化している時代である。今ある学校教育だけではなく、社会の学びや、学校と社会が連携していくことが重要だと考える。
- 自分たちが笑顔で過ごせるために、私は大田区で、子どもだけではなく、大人とも一緒に異世代で交流しながら社会を学べる、いられる、つながれる場所を作りたい。
- 学校だけが居場所だと思い、そこに居場所がない自分はいなくてもいいのだと思うような子や、家庭での居場所がない子もいる。社会に自分の居場所があると思えることが大切だ。

Bさん

- 私の目標は、多様な生活背景にある人たちが、孤立を感じずお互いに支え合うまちづくりを実現することである。
- 将来大人になったときに、助けを求められる人になれるように、子どものうちから自分には居場所があると知ってもらうために、また、経済的な理由で将来の選択を阻まれないようにするために、学習補助や子どもの向上心を育むための学習支援を開催している。
- 子どもたちに「大丈夫」といった声かけやささいなことでも気に掛けることによって、家でも言えない悩みを抱えることを知ることができる。

Cさん

- 大田区がこんなまちだったらということについて、もし私が区長や校長先生だったら、もう少し夢を探求できる場所ができるといいと思う。
- 子どもはスポンジみたいなもので、吸収させればさせるほど、色々なものが入っていく。こういう環境が日本ではまだ少ないと感じている。学校の勉強から一歩先へ出た勉強を作れる場所があるといいと思う。



Dさん

- 自信がない人は、自分にはなにも取り柄がないと感じてしまうことがあるのではないかと思う。「強みだと思えること」や「これをしている自分はすごく好きだと思えるものがあること」が生きがいになるのではないか。その生きがいを実感できることが、子どもが豊かに暮らすことにつながると思っている。
- ここに集まっている方は、子どもにこうなってほしい等の思いや願いがあると思うが、他のまちの大人にも子どものことをもっと知ってもらわなければならないと思う。一方で、自分も含めてここに集まっている方は、思いや願いがあるからこそ子どもや若者のことを考えているつもりになってしまいがち。子どもの意見に合わせているはずが、子どもの意見を自分たちの活動に当てはめてしまっていないかという視点を常に持って、取り組んでいく必要があると思う。

Eさん

- 友人に誘われてこども食堂のボランティアに初めて参加した。子ども達が楽しそうにご飯を食べている姿を見たり、年齢の離れた子どもたちの話を聞いたりして、いろんな世代との交流ができたことがきっかけで、こども食堂に継続的に参加するようになった。
- コロナ禍で人と会う機会も減っているので、コロナ禍での小さな悩みや子どもならではの悩み、大人ならではの悩みなど、世代関係なく一人ひとりの悩みを相談できる場所がもっと増えたらいいと思う。



Fさん

- ▶ 昔、自分はいじめを受けていて、わかってもらえる人がいないと思っていた。親に相談して、昔はこうだったとつらい話やアドバイスをされてもよくわからなかった。でも、共有できる友達が1人でき、「話だけならいくらでも聞くよ」と言ってくれて仲良くなれた。
- ▶ 夢を否定するばかりではなく、大人は子どもにちゃんと向き合ってほしい。夢は叶えられないかもしれないが、言葉や行動で支えてくれるなど、自分の気持ちをわかってほしい。

Gさん

- ▶ もし私が区長や大きなことができる人になったら、地域活動団体の活動を子どもにとって学校とならぶ存在にしていきたいと思う。子どもでも大人でも一人でいると世界感は小さくなりやすいので、地域の活動を通して、広い世界を見ていくことが重要ではないかと思う。

Hさん

- ▶ 大田区のためには、経験できる社会を子どものためにつくるというのが重要になってくるのではないか。このように話す機会も、自分たちだけではなく、他の若者にも必要だ。
- ▶ 子どもを支援する前に、その親の支援が大切だと思う。子どもだけにフォーカスを当てるのではなく、親子にフォーカスを当てるべきだと思う。

Iさん

- ▶ ボランティア活動等の経験から、以前から社会福祉に興味を持っており、それを大学で学ぼうと親の反対を振り切って決めた。いつか後悔するかもしれないが、自分が選んだことに意味があるので、しっかり自分の進路は自分で決めてほしいと思う。
- ▶ フラットおおたに見学に行った際、社会人の方から、コロナ禍において孤独を感じる機会が多くなったことや、学生の間は強制的に人間とのつながりがあるが、社会人になってからは自分からいかに人間関係を築くのが難しくなるので、フラットおおたで社会とのつながりを持ちたいという話を聞いた。今自分は学生で、社会とのつながりを強制的に持たされている状態だが、これから孤独が訪れるかもしれない。これから来るかもしれない孤独に対抗するために、社会人がつながりを持てる居場所がちゃんとあるということを、多くの若者に知ってもらいたいと思う。また、自分もそういうことを広める力添えをしていきたい。

5 大人の感想・意見等（一部抜粋）

【地域活動団体】



- ◆ 前向きな話だけでなく、自身の経験してきた困難な話が印象に残った。
- ◆ 発表された皆様が今感じていることを自分の言葉で発表されていて、とても心に響いた。子ども（若者）であっても、しっかりと自分の考えをもっており、このような場で考えを発信するという自体すごいことで、この「声」を聞いて、行政は真剣に課題に対して向き合わなければいけないと思う。
- ◆ 彼らの年齢は確かに子ども・若者ではあるが、中身はもう立派に大人だなと感じた。学びは学校だけでなく、社会に出ても学び続け、つながる・つながりあうことで新しい居場所も生まれると思った。「子どもを本当に理解しているのか!」「意見を無理に当てはめていないか!」という意見にはドキッとした。価値観の押し付けをしているつもりはなくても、もしかしたら無意識に行っていることもあるかもしれないので気を付けたい。

【社会福祉協議会】

- ◆ 外国人の方や親のこと、子どもに目を向けて考えること、サードプレイスの大切さも改めて感じた。
- ◆ 子ども達が色々な人と出会って、人と関わることの大切さや面白さを知ったという話を聞き、そういう場が地域でたくさん出来ていくことが子どもの成長にとって大切だと感じた。

【区関係所管】

- ◆ 地域活動が学校くらい大きなポジションであつたらいいのという声が印象的だった。若者自身が社会づくりに意識を持つこと、良いことでもあるが、そう考えなければいけない社会になってしまったということが耳も痛く、心に残る話だった。
- ◆ 大人が考える以上に子どもたちは真面目によく考えていることを再認識した。指摘していた問題は区の課題としての的を得ていた。やはり行政の相談窓口の敷居はまだ高いと思った。

6 子ども・若者の感想（一部抜粋）

- 学びや居場所の広がり、親への支援などの意見があり、一人ひとりの考えに、自分はまだ学べるものがあると思った。色々な世代の人と交流して、経験値を蓄えていきたい。
- 発表を聞いて、将来に夢をはせつつ、漠然とした不安を感じている子が多いように感じた。ネットや親の意見に振り回される子どもたちが安心して将来の自分を思い描くことができるような社会になればいいなと感じた。
- 人前で話し、他の人の活動を知れる貴重な経験が出来た。
- 各々が自分の経験から感じたことを素直に述べていて、恐らくこの場にはいない子ども・若者も思っていることがあるだろうと感じた。そうした思いを直接伝えることができる機会を設けていただいたことは、とてもありがたいと思った。



＼ 大人から子ども・若者へのメッセージ（一部抜粋） ／

- 何に対しても興味を持って、自分の「引き出し」を沢山つくってほしいです。私たちはいつも味方であり、応援しています！
- 話を聞かせていただき、ありがとうございました。夢をあきらめず、自分の思うままに思いっきり、生きてほしいと思います。
- 自分の人生は自分のもの。色々な人の話を聞いて、最後は自分で決めていってほしいです。頑張ってください！